

平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	りんご「シナノゴールド」の台木比較評価	
[要約]				
「JM7」台木は糖度が最も高く食味に係る品質が優れる。「JM7」台木における穂品種「シナノゴールド」の樹体生育は、JM1 < JM7 < M.9 の順に幹周、樹幅、樹高、樹容積が大きくなり、「JM7」は中庸な樹体となる。「JM7」の樹容積当収量は「JM1」と比較し大差は無く、「M.9」台木より多い。				
キーワード	りんご	シナノゴールド	JM7	技術部 園芸研究室

1 背景とねらい

りんごのわい性台木の「JM1」、「JM7」については、利用方法について主要品種である「さんさ」、「つがる」、「ジョナゴールド」、「ふじ」について報告がなされている。しかし、平成 16 年度に奨励品種となった「シナノゴールド」については検討が行われていない。そこで、本試験では「シナノゴールド」の安定生産技術の確立を目的として、「JM1」、「JM7」、「M.9」台木で特性を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 「JM7」台木の特性を評価した結果、「M.9」台木と比較して、糖度が最も高く食味に係る品質が優れる（表 1、図 1）。
- (2) 「JM1」、「JM7」、「M.9」台木における穂品種「シナノゴールド」の樹体生育は、JM1 < JM7 < M.9 の順に幹周、樹幅、樹高、樹容積が大きくなる（図 2～5）。
- (3) 「JM1」、「JM7」、「M.9」台木における樹容積当収量は、「JM1」「JM7」 > 「M.9」の順で多い。（図 6）。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 「JM1」台木はわい性が強く、コンパクトな樹体となるが、改植園では樹勢が弱ることがあるので利用については十分注意すること。
- (2) 改植の際には「JM7」台木を導入することが望ましい。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等
県下全域の「シナノゴールド」生産者への指導機関
- (2) 期待する活用効果
「シナノゴールド」導入時の植栽条件に見合う台木選択の知見となり、生産性の安定した新・改植につながる。

5 当該事項に係る試験研究課題

- (H15-38) 新品種などの安定生産技術の確立
(2000) 「シナノゴールド」安定生産技術の確立 (H17～H22、県単)

6 研究担当者

畠山隆幸

7 参考資料・文献

- 平成 17～19 年度 岩手県農業研究センター 果樹試験成績書
平成 12 年度試験研究成果「りんご新わい性台木「JM1」「JM7」の耐水性」
平成 13 年度試験研究成果「りんご新わい性台木「JM1」「JM7」の利用法」
平成 14 年度試験研究成果「「JM1」「JM7」台木の接ぎ木挿しによるりんごわい性苗木の短期育成法」
平成 15 年度試験研究成果「りんご新わい性台木「JM1」「JM7」の利用法（追補）- 改植園地における「JM7」の特性 - 」

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表 1 台木別果実品質 (H18, 20 年の平均値)

台木	調査果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	果皮色 (指数)	デブソ反応 (指数)	油上がり (指数)
JM1	415.0	13.5	14.6	0.449	4.9	0.32	1.3
JM7	396.6	13.8	15.2	0.474	5.4	0.49	1.4
M.9	393.6	13.7	14.8	0.463	4.9	0.56	1.3

果皮色：きおう表面色加-チャート指数：0(緑)~6(黄)
 デブソ反応：ヨド加反応の指数、0(無)~5(全染色)
 油上がり指数：0(無)~3(多)

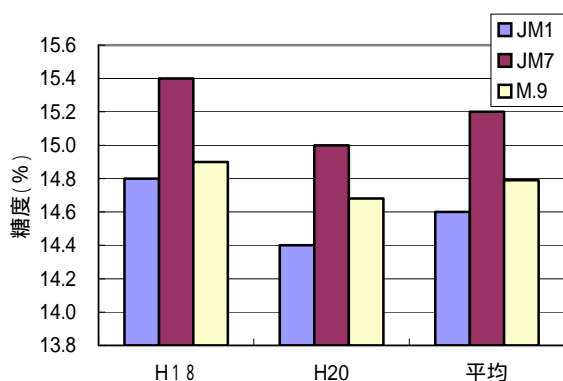


図 1 台木別糖度

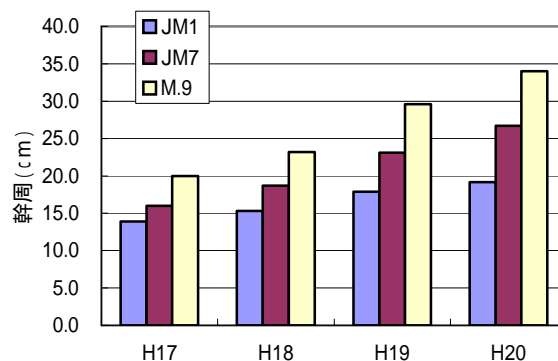


図 2 台木別幹周

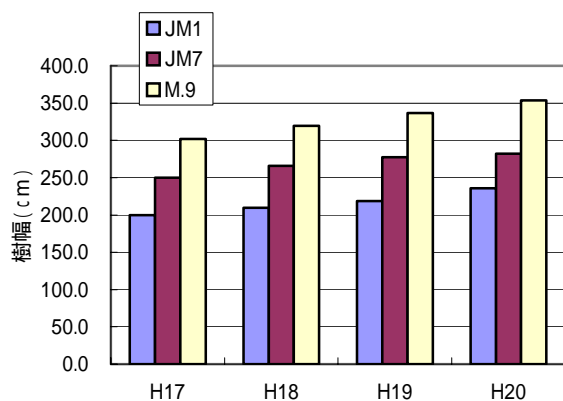


図 3 台木別樹幅

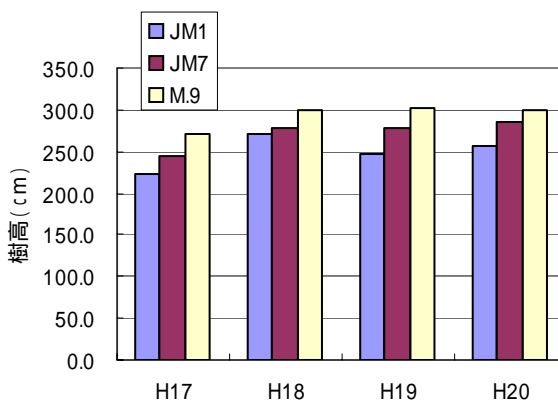


図 4 台木別樹高

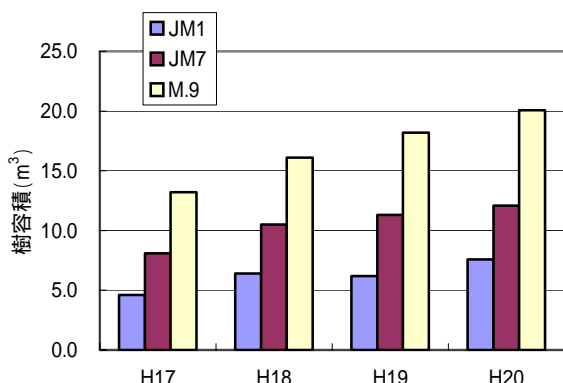


図 5 台木別樹容積

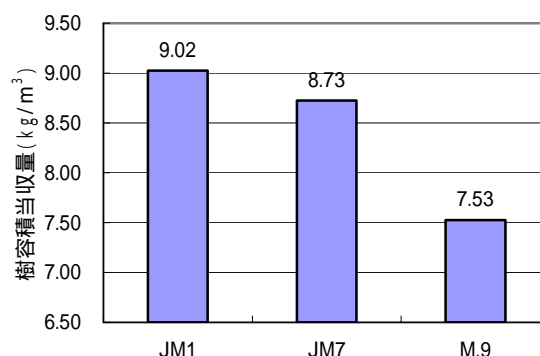


図 6 樹容積当収量

図 1：調査果数 H18 年は 10 果 5 反復の平均、H20 年は 5 果 5 反復の平均。
 図 2 ~ 5：調査樹は平成 20 年で 10 年生。各試験区 1 樹 5 反復の平均。地上部台木長は 20 cm。ただし、「JM1」
 台木は H13 年に盛り土を施している。植栽距離 2.5 × 4m。
 図 6：樹容積当収量 = 累積収量 / 樹容積。H15 ~ H20 年度の累積収量。H19 年欠側。
 樹容積 = 2/3 × (樹幅/2)² × 樹高